

陸上競技研究紀要 第5巻

編集後記

予定よりやや遅くなりましたが、平成20(2008)年度「陸上競技研究紀要第5巻」をお届けします。

本「研究紀要」も早いもので、リニューアルしてから5年目を迎えました。昨年、日本陸連ホームページに本「研究紀要」について紹介したり、各要覧等に掲載したところ、多くの体育系大学などから、大学図書館に置きたい(定期購読したい)との希望がありました。もちろん早速、希望された全ての大学に寄贈いたしました。5年目を迎え、さらに多くの購読者が増えていくことを望む次第です。

今回は、できるだけ多くの陸上競技関係者や指導者の方々に読んでいただきたいという主旨に則り、その必要性から、これまで最高の「1600部」を発行しました。その配布(寄贈)先は、投稿者、公認・上級コーチ、理事、評議員、都道府県陸協、協力団体、JOC、日本体育協会、JISS、NTC、国立国会図書館、さらにはIAAF(国際陸連)、アメリカ陸連、イギリス陸連、ドイツ陸連、AIS、AAA(アジア陸連)、大学図書館などに及んでいます。これまでと同様、質問や問い合わせを含め、大きな反響があることを編集者一同期待している次第です。

さて、今回の第5巻1部では、査読審査を得て、「原著論文」1編と「資料」5編の掲載が決定いたしました。また、第2部の「科学委員会報告」は今回で通算8巻目となりますが、今回は15編の報告がなされています。今回の「第5巻」の論文・資料・研究報告(合計21編)は、大会における競技運営面や陸上競技(種目)の技術・トレーニングを見直す上から、陸上競技関係者や指導者に参考となるものばかりです。本「紀要」が、多くの皆様方に活用されれば誠に幸いです。

ところで、今回、特に残念であったことは、原著論文が(これまで最少の)1編しか投稿されなかったということです。前回(第4巻)の編集後記においても、阿江編集委員長が原著論文が少なくなったことを指摘をし、「大学教員が学内外の諸事雑務に追われ、本来の教育・研究に投入できる時間やエネルギーが減少している」ことをその理由として挙げていますが、教員各位にはそれにめげず、ぜひとも次回ならびに今後の投稿をお願いしたいと思います。もちろん、若手の研究者、指導者には、研究論文をどしどし投稿していただきたいものです。

これからの日本陸上界がさらなる進歩・躍進を果たすためには、多くの研究がなされ、それらが現場に活用されることが基盤となるはずで、日本陸連が編集・発行する「陸上競技紀要」は、そのために重要な役割を果たすものと確信しております。

平成21年6月12日

文責 岡野 進(編集副委員長)

陸上競技紀要第5巻 編集委員会

阿江通良(編集委員長)、岡野 進(編集副委員長)、伊藤 宏、松尾彰文、杉田正明
(日本陸上競技連盟・事務局) 風間 明、森 泰夫、佐藤峻一

「陸上競技研究紀要」第5巻

2009年6月25日発行

発行人 澤木 啓祐

発行所 財団法人日本陸上競技連盟

〒150-8050 東京都渋谷区神南1-1-1 岸記念体育会館内

TEL : 03-3481-2300
